

「入園おめでとうございませう  
ご進級おめでとうございませう

昨秋子どもたちが植えてくれた子ネリッブが、プランターの中で日に日にたくましく伸びていき、寺尾中央公園では桜の花芽が開花を待ちわびるようにはつきりとふくらんで見えるようになりました。どちらも春を待つお子たちの成長いそぐり重なるように思えて、今月から始まる新年度への期待が膨らみます。

初めて保育園という集団生活に入るお子たちには、不安や緊張が大きい四月です。

一方、ひとつ大きくなって進級した子どもたちにも、お部屋や担任の先生が変わったり、新しいお友達と出会い、何となく落ち着かない——これが毎年四月の保育園です。そこで四月の保育園では、子どもひとりひとりの不安や緊張と

できるだけ早く取り除き、先生や友だちとの関わりに興味を持って、園生活が楽しくなるようにゆとりとした保育を心掛けて参ります。

どうぞお家では「何となく来たの」「面白かった？」お友だちほできたことなど、追究し過ぎないようにして、見守る気持ちで接してくださいませぬようお願いいたします。四月は、子育てあ、いうえ、おの「ま行」です。

- ま 待てる
- み 見守る
- む 無理しない
- め 目元優しく
- も 盛り上げる

子どもたちには「頭がいいとか人より何かが勝れているとか、大人っぽいなど」と言われる前にしつかりと育んでおかなければならないことがあるのです。

それは、「人間性の基礎」です。思いやり、優しさ、親切、やる

気がまん、根気などの情操と意志が人間性の基礎になります。

このような心を育てることを子育ての基本目標にしなければなりませんと思っております。

これが開園以来三十七年間続けて来た松の実保育園の保育のベースです。子どもが自ら育つ力を信じて、自らの育ちの芽を摘み取るような教え込みや引き伸ばしを慎み、ひとりひとりの今ある育ちを支え、その育ちから導き、先の見通しを立てて援助し続けることが大人の役割です。

松の実の保育目標「丈夫な心と元気な体に向けて、保護者皆様との連携を基に、信頼と協調の輪の中で、子どもが子どもらしく伸び伸びと育ちますのよう」に、と願う新たな平成二十六年度を迎えました。

園長 福田孝子

426. 4月